

## 鶏卵の品質改善について

(語り手)

岡山県経済連 畜産課長 渡辺 昇  
岡山県大阪経済事務所 技師 神野 一雄

神野「渡辺課長さん、今経済連で年間どれ位卵を取扱っておられますか。」

渡辺「550万キロが今年の計画です。」

神野「昨年は何れ位ですか。」

渡辺「480万キロです。今年はまあ、520万キロ確実に突破すると思います。それで大体岡山県の県外移出の大体6割位になるだろうと思います。」

神野「あとの大体4割は商人系統が出しているということでござい/ますね。外にも小さな団体がありますけれどこれはまあ大したことではない、殆んど共同出荷の荷は経済連が出しているという現状ですね。」

渡辺「そう言うことですね。」

神野「先般も、これは経済連の関係だけではないのですが、岡山県の生産者の出荷団体が出している卵について、阪神方面の市場で先月中旬頃でしたか、抜取検査をやりましたが、勿論県の畜産課からも係員が来まして、私もこめて3人でもってその抜取検査をやったわけですが、その結果、私達検査をした者が感じたことは、4、5年前から較べれば非常に品質がよくなってきたことが窺えるんです。このよくなってきたことについては、経済連とされても品質改善に非常に努力されてきただろうと思うんです。その一つ苦心談をですね、聞かせていただければ参考になるんじゃないかと考えるんです。」

渡辺「私、この卵ということについて、非常に苦労してきたという、どうも自分から気安く言うようですけど、従来岡山の卵は、民間の業者に一任されて大阪市場や神戸市場に出ていたんですが、それが個々ばらばらであったということでこれは何とか協同体制によって計画出荷しなければならんというので、各方面から協力を得たわけですけども、その結果現在経済連が漸く6割近く集めるということになってき

ました。しかしその矢先きに、最近養鶏の経営の実態が全国的に変ってきたということですね。

神野さんのおられる大阪周辺に、岡山県としては一番強敵な大阪近郊の都市養鶏地帯ができたということです。それをみると、非常に企業的に大羽数を計画的に高い技術で飼って、採算ベースをとり、毎日新しい卵を市場までとどけるということがあるわけです。

私はどこでも言うんですが、岡山県の現在の養鶏経営が農業のほんの副業で、要するに奥さんや、おばあさんの小使い取りに鶏を飼うというのが実態である。で非常に零細な養鶏経営であるために、品質も自然に落ちるという風である。聞くところによれば、大阪近郊の養鶏地帯では、岡山県に等しい位の羽数を持っており、それが毎日集卵を行って、毎日市場へ出荷するというような、最も新しい卵を出している。これに較べて岡山は非常に距離も離れている。また以前は10日集卵というようなことを業者でやっていたけれども、漸く経済連としては、5日目集卵にまで今日進んできた、5日ということは半分短縮できたということで、以前から見れば鮮度はよくなっている、しかし大阪の地玉の強敵に打ち勝つということになれば、さらに新しい品質の良い卵を送って行かなければ大阪市場でとても立行くことはできんということを、私達は常に言うわけです。

それでは、岡山養鶏をどういう風に今後持っていくかということですね、今言う10羽、20羽の養鶏、これは統計からみれば、1戸当り12羽ということになるけれども、10羽、20羽の養鶏は、本当にただ卵の値段ばかりを焦っている、品質ということ、また養鶏技術ということが非常に劣っている。でそういう点を今後指導し、

## 岡山畜産便り1959.10

生産される卵の品質をますます改善して行くように、大阪の向うを張って、岡山県の養鶏を進めて行かなければ、岡山の卵というものは京阪神市場から押し出されてしまっ、どこへ行こうかと言うようなことになります。しかし大阪が一番近い経済の流れの地盤であるということになれば、自然に大阪周辺の卵よりも値段は安く買いたたかれるようになってくる。現在の情勢では、どうしても品質を改善しなければならぬ、とすれば、或る程度の羽数を飼い、数量も纏ってゆけば、品質改善もまたできるというようなことを最近考えています。

まあ、10羽20羽という養鶏家に、喧しく汚卵を掃除しなさい、また鮮度を新しくしなさいというけれども、相手そのものが零細であるから、個々の農家から、毎回5日目、5日目に集荷した1キログラムか、2キログラムという量のものが纏って市場へ出てくるというものがどうしてもまちまちになる。そこで品質、規格の統一をしようということになれば、或る程度岡山県の養鶏というものを今の農業経営にうまくマッチさせ、規模を大きくして計画生産をする必要がある。つまり岡山県の養鶏をおばあさんの小使い取りにするか、或は農業生産計画また営農計画というものにはどうしても、養鶏を取り入れなければ、農業経営は成り立たないと云う、生産計画の中に入れるかどうかという2つに1つの岐路に立っている。今後岡山の養鶏に進んで行く道は後者によらなければならないと言うということは、自ら明らかなんですか、それによって強敵を向うに回して、大阪市場に体当たりをして行かなければならぬ。そう言う方面は神野さんは御詳しいだと思ふんです。」

**神野**「いや、これは恐縮です。」

**渡辺**「新しい感覚で養鶏家の認識を深めると言うことですね、今まであなた方は、岡山の卵は天下一品だと言っていただけども、そうゆう強敵が出来たということをいろいろの機会に言っているわけですがね。」

**神野**「今、渡辺課長から鮮度の問題が出たんですが、この間の抜取検査のときには鮮度を重点的に

見ていったわけなんです、なる程全般的に見ますと鮮度がよくなっている、しかも酷暑の最中に出た卵としては鮮度は全般 的によい。しかしこれを組合別に個々に見て行きますと、1箱（10キログラム入り）の中に大体170～180個位入っていますが、その卵の中に鮮度のよいものが半分と、あとの半分はあまり感心しないというような卵が入っているわけです。これはですね、大体収卵日が5日目毎としようということから、5日目の卵と出荷の前日に集めた卵ということになると、自と鮮度が違うと思ひますけれども、それにしてもその差が酷い、良いものと悪いものとの差が酷ど過ぎるというようなケースがあるわけです。これは私達が考えるのに、恐らく集卵日が、ある組合によっては、嚴重に守られていないんじゃないかと言うようなところが窮えるんです。

極端な例になると所謂ツンボ、腐れ卵ですね、これが時々出てくるんです。酷いやつになると1箱の中に腐れ卵が35個も出てきたというケースもあるわけです。これらは考えてみると、恐らく1回、2回遅れの卵じゃないかと思うんです、恐らく3週間以上も前に生産された卵が出荷されているのではないか、しかもその汚卵の処理に当って水洗いをしたのではないかという傾向が多分に窮われるんです。

こうしたやつを、今後共よく指導していただいて、そういう腐れ卵が出ないようにやっていたきたいということですね、こういうようなものが、1つでも2つでも出れば、それを以って全般的に岡山の卵は腐っているというような汚名を拵げられるという、そういうことによって信用が落ちて行くのであること、その点を生産者の方なり、出荷の各農協さんに充分啓蒙していただきたいと、斯様に考える訳なんです。」

**渡辺**「その点ですがね、10羽、20羽の岡山県の養鶏家自体の多くが、鶏の卵は売るもんだということで、食べるものであるということは2番でね、それで販売するというのが、今言う零細養鶏家の考え方で、そしてそれは、出荷の場合、農協

## 岡山畜産便り1959.10

までまたは部落の集卵場まで持って行くのに、今日は数にすれば20コほどしかないから、或いは、30コ程だから、まあ今度の便にしようかというの、私は一番あなたのおっしゃる問題の起る原因でしてね。私はそれをどういう風に今後もって行くべきかということについて、考えますのに、羽数を増やすということなれば自然数量的にも纏るし、品質の点も改善されるということになってくるんじゃないかということですね。

また神野さんも御承知でしょうが、岡山県の養鶏も大分変わってきたということが出来ます。御指摘の大阪からの情報を聴きますと、(岡山)県の南部地帯の卵があまり芳しくなかった、かえって北部地帯の方がよく、且ては、岡山県の養鶏地帯の羽数の多い笠岡の周辺から、山陽沿線が先進地だった。まあ養鶏家は天狗が多いんだね、天狗が多いということは、良い面は賞めてもいいが、卵の出荷の場合、習慣的な常識として、ああこれ位なら構わないという安易な気持ちで荷造りをするんですね、そして出荷の相手は業者も居ることだし、農協共販で安かったら業者へ出せばよいということで、汚れ卵をそのまま出す、また業者はもって帰って汚卵が多量ですから水洗いをする、それをまた単協はまねをして水洗いをする、というようなことだったんですが、北部地帯は、本気で言うことを聞いてくれる、農業経営の中には、生きるために養鶏を取り入れていかなければということで、商品価値を新興地は高めなければならぬという熱意が自然生れてきている。そういう関係で卵の鮮度も自らよくなるということです。中には勝山の方に行くと、一里二里も離れたところから集荷をしなければならぬ地帯もあるけれども、だんだん北部地帯の方は、南部地帯よりも計画的に鶏を飼う気になっている。

そういう風であるから、私は南の方の人には時々言うんですよ、あなた方の地帯は日本一の養鶏地帯であると言っておだてるんですよ、こういうと叱られるかもわかりませんが、余程考えなければいけない。何時までも努力を

せずに栄えるという事は続かない。じっくりと今後の養鶏というものを考えなければいけない、ということで話しをするんですがね。」

**神野**「まあ直接出荷にあたって鮮度を保持するという事は、集卵日の厳守ということで尽きると思うんですがね、これを今度嚴重にやって頂きたいと思います。」

**渡辺**「そのことでは、私の方もそのような方針でやっていますが、品質をよくするために、保証票というものを卵の箱の中に入れていますが、それによって卵の間屋さんから三下り半じゃないけれども手紙を書いてくる、あんたの箱の中には悪い卵が何んぼうあった。10個あったということで、これを単協まで届けてやる。単協はまた、養鶏家に届けてやる。そこまで行くとやっぱり自分の卵は悪いんじゃないかと思ってそういう気持ちになる。」

**神野**「何んといっても、向うの業者に対して卵を高く買えと言うだけでは、これはいけませんね、矢張りその裏付けとして品質を良くするというので、これが一番最短距離じゃないかと私は常々考えるわけですね、それとね、量目不足ですね、これが依然として非常に多い訳なんです、この間も検査をやった組合の中で3分の2位が量目不足が出ておるんです。ひどい例になると1箱の10キロ入のケースに500グラム以上も欠量があるというようなことがあるんです。」

これは本当に荷造りの技術の問題ではなしにね、なんと言うか荷造りする場合の一寸した注意とか不注意に起因するんじゃないんですかね。」

**渡辺**「まあ500グラム違うということは、迷ったんだと思うんですがね、岡山県の場合、ギリギリに入れるんだね、10キログラム入れるというとほんとに10キログラムしか入れないんですからね、ああいうのは他府県の状態からいうと、10キロ入れるというと10キロを余す位に入れると良いんですけれどね、私は4、5年前、サービス卵を入れなさいと言うて、サービス卵の紙をわざと作って送ってやったところ、成る程、

## 岡山畜産便り1959.10

その当時は3.5貫入りだったから、3.5貫の箱の中へサービス卵を入れたという風なサービス卵の紙を入れていたのはいいんですが、中を計ってみたら卵は一つもはいっとらんで、紙だけが這入っとなった。(笑)という風なことがあったのです。」

**神野**「それじゃ逆効果ですね。」

**渡辺**「それでどうして岡山県の方は、せめて目方だけは正確にやって貰えんのだろうかと、私は実になげかわしく思うんです。」

**神野**「これは信用第一ですからね。」

**渡辺**「どうもこれは他府県に較べて、大きな市場へ行って笑われもんになりますよ。」

結局そういうことがいつまでも続かないように、とくと養鶏家の認識を深めて、そういうことじゃいけないぞ、という話合いの場を沢山作って、こ頃言うて歩いているんです。よく認識するということが結局そういう風な面で改善されていくんじゃないかと思っています。」

**神野**「それから4、5年前非常に問題になっていた汚卵ですね、これは最近大変よくなって来たと思うんです。この間見せていただいたのが170組合程ありましたがね、この汚卵の処理が非常に4、5年前と較べると進歩して来ています。非常に美しくなって来ています。それから選別ですが、大中小に分けて詰めるということも非常に進歩してきてることが窺われたわけなんです。しかし、この選別にしても汚卵の処理にしても、今一步ということが窺われる訳なんです。まあこういうことがよくなって呉れば、名実共に阪神市場で岡山の卵は名声を博するわけですね。」

現在では数量的には断然阪神の市場で他県を圧倒して成果を挙げているわけなんです。この上は品質を改善して、名実共に岡山の卵は良いんだという、阪神市場でその主導性を取るんだという処へですね、お互に努力してやって行きたいもんですね。」

**渡辺**「これはどうしても皆んな一丸となって話し合っ、県下の人へも協力して頂いて、あんたの卵を高く売るんだったらどうしてもこうしてや

らないと売れんぞという話しをですね、私達の職員とわらじ掛けで部落に這入って徹底して、ほんとうに下から認識したものにしていかないと、今、現在それだけ数量を出しているといっても、まだまだそういう荷受側の不平があるわけなんだ。」

**神野**「もうこれは何んと言っても品質で競争して行くという時代ですからね、特に先刻も渡辺課長が言われたように、その大阪の地玉の脅威ということ、これは大きな問題ですよ、現在大坂市場へ日に日に5,500ケース卵が出ているという話なんです。そのうち2,000ケースから2,500ケースが地元の卵であると言われ、これが毎日集卵で鮮度の良い卵をどんどん市場へ供給していること、そこへもって来て大概是5日目集卵ですね、鮮度も幾分落ちていくということになるとね、これは将来大きな問題になると思うんですがね。」

**渡辺**「大阪ものは安うて良いわけですしね、経費、輸送費がかからないしね。」

**神野**「生産者にとって非常に有利ですしね、まあこれから地玉に対向する意味においても集卵日を厳守することと、出来れば量が纏るところは夏場だけでも3日目集卵につして、鮮度のいいものを供給するということところへ行きたいもんだと思います。」

**渡辺**「これからも御援助頂きまして、私達農協の關係に居る人間として、どうしても旨くやっっていかなければならないと思います。」

**渡辺**「今日はどうも有難うございました。」

**神野**「どうぞよろしく。」